

第2部：10：20～11：30

## <インタビュー・ダイアログ>

### 『学習療法』で認知症高齢者の脳機能活性化に挑む

登壇者：福岡県大川市：社会福祉法人道海永寿会総所長

介護老人福祉施設永寿園 園長

山崎 律美

聞き手：月刊生涯学習通信『風の便り』編集長

三浦清一郎

元飯塚市教育委員会教育長 飯塚市青少年教育施設 サンビレッジ茜理事長

森本 精造

#### <登壇者プロフィール>



●山崎 律美 福岡県大川市：社会福祉法人道海永寿会総所長 介護老人福祉施設永寿園 園長

旧厚生省・社会局・国立福岡視力障害センター生活指導員専門職、佐賀県福祉生活部身体障害者施設生活指導員、児童施設・児童指導員、福祉事務所ケースワーカーを経て、社会福祉法人道海永寿会・特別養護老人ホーム永寿園に入職。現在、社会福祉法人道海永寿会総所長と特別養護老人ホーム永寿園園長を兼務している。

#### <聞き手>



●三浦清一郎 月刊生涯学習通信『風の便り』編集長

国立社会教育研修所、文部省、福岡教育大学、シラキューズ大学、九州女子大学などを経て、現在月刊生涯学習通信『風の便り』編集長。晩年は執筆に集中し、近著に、「明日の学童保育」（日本地域社会研究所）、「国際結婚の社会学」（同）、「詩歌自分史のすすめ」（同）、「消滅自治体は都会の子が救う」（同）、「隠居文化と戦え」（同）などがある。

●森本 精造 元飯塚市教育委員会教育長 飯塚市青少年教育施設 サンビレッジ茜理事長

福岡県教育庁社会教育課長、福岡県立社会教育総合センター所長、穂波町教育委員会教育長、飯塚市教育委員会教育長を歴任。穂波町時代、全公立小学校に「子どもマナビ塾」、「熟年者マナビ塾」を導入し、飯塚市では「いいづか市民マナビネットワーク」（e-マナビ）など多くの先駆的行政施策の開発を手掛けてきた。退職後は「学童と学校の連携」（学社連携）に奔走。前本交流会代表世話人。